

## お手軽バードウォッチング

理事 村上孝雄

拙宅のマンションは小さな川に面している。川岸は親水護岸になっており、ヨシ等が繁茂して干潟もある。小さな水辺だが様々な鳥が集まって来る。生態系における水辺の重要性を改めて感じる。ベランダから良く見えるので、居ながらにして野鳥を観察でき、「お手軽バードウォッチング」が楽しめる。

水鳥ではサギ、カモ、オオバン、カイツブリ、ウ等が見られる。サギはダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギと色々な種類がやって来る。ダイサギとアオサギは大きな鳥だ。コサギの群れが食事をしているとダイサギが来て、「どけどけ」とばかりにコサギを追い散らし、餌を探し始める。分かち合うという気持ちは全くないようだ。

アオサギはいつも単独行動だ。体が大きく強そうなのだが、ダイサギ達が来るとおとなしく場所を譲る。平和主義者なのか？ただ、アオサギの眼は冷酷無比という感じの怖い眼だ。さすが恐竜の末裔だと思う。

ダイサギ等の白鷺は、降りる時は翼を大きく広げて速度を落とし、長い足でフワッと優雅に着地する。その立ち姿はまことに美しいが、真冬、雪舞う中、じっと動かないサギを見ると大変だなと思う。さぞや寒かろう、足が冷たかろう。家の中でぬくぬくできる我々人間は幸せである。

小鳥たちも来る。スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ハクセキレイ等々。



カワセミも時々現れる。背中のコバルトブルーが煌めき、水面にダイブしたと思うと、もう小魚を咥えている。一瞬の早技だ。写真(上)は護岸で魚を

探すカワセミだが、画質の粗さにご容赦。望遠レンズなら良い写真が撮れるのだが、それが出来ない。観察に双眼鏡も使えない。何故なら対岸のお宅を覗いているとか、盗撮しているとか

思われて、通報でもされたら一大事だ。文明の利器に頼らず、目を皿のようにして観るしかないのが、「お手軽バードウォッチング」の泣き所である。

カワセミは「溪流の宝石」と呼ばれ、山深くに棲むという印象だが、都会でも結構姿が見られる。写真(下)は、筆者がスリランカ滞在中に街中で撮影したカワセミである。下水道が未普及なので、この都市水路も汚濁がひどいドブ川だ。ここで餌を探すカワセミのコバルトブルーの背中は泣いているような気がする。



スリランカは債務の罠に嵌って国家経済が破綻してしまい、とても下水道整備どころではない状況である。彼の地のカワセミが清流に舞える日が早く来ることを願いたい。

## 2023年度活動報告

### 研究集会「マンション排水設備の現状と課題」報告

亀田泰武

2017年研究集会「集合住宅の排水設備更新更生の今」の6年後、12月4日、分譲マンションの排水設備の更新に的を絞って開催した。住人の高齢化などマンション管理・修繕問題の事態の深刻さがさらに増加し、管理適正化法などの制度の改善が行われ、また住戸の負担が少なく、費用も抑えられる技術革新が進んでいる状況から開催。三水コンサルタントの会議室を提供していただき、講師に来訪いただいて ZOOM によるオンラインで実施した。司会は秋山理事。

講演は、最初、「マンション管理の現状と適正化に向けて」で住宅金融支援機構の太田裕之、マンション・まちづくり支援企画グループ長に、増加する高経年マンションで雨漏りや温水管の不具合が特に多いこと、公的な関与が強化された法制度、築

後30-44年に配管工事が多いなど。次に「高経年マンションにおける大規模修繕について」で(株)翔設計、竹原敏勝ゼネラルマネージャーに、永住傾向で長期居住希望の増加、マンションの寿命を左右する、躯体、設備、劣化・時代対応の3要素があり、給排水設備更新、時代対応など当初の長期修繕計画に入っていないものがある。新築時の長期修繕計画は計画年数が短く、その先に大きな費用がかかってくるので、定期的な見直しをしていく必要があるなど。次に「排水管更新の現状と事例」で(株)翔設計、梅津いづみ副部長に、給排水管のマンション内での共用部と専用部の配管の状況、建設年代による違い、建物寿命と排水管改修の関連、専用部配管まで更新工事を管理組合が費用負担する場合の得失と事例の紹介など。

休憩後、山崎義広会員による総合討論が行われた。



給湯配管の水漏れが多いこと。修繕などの履歴をしっかりと残り、定期的に調査を行っていくことなどにより適切な計画ができること。合意形成まで時間がかかるので数年にわたり取り組んでもらう修繕委員会が必要など、貴重な情報が得られた。

参加申し込みは当初少なく、登録締め切りを延ばしたが、終わり頃になって申し込みが急増し、90名の定数一杯となり、約20名お断りした。講師の方に広報していただき多数の参加者となったようである。マンション管理組合などの方々が20名程度参加されている。

集会終了後、会議室をお借りして、基礎知識部会有志を加えた情報交換会を行い、そこでも有益なお話をいただいた。

## 会員だより

### 徒然水草 其之四 「未来の下水処理場」

嫌気好気法師

未来の下水処理場は、持続可能性、効率性、環境への影響最小化に焦点を当てた先進的な技術を取り入れることが期待される。以下の要素が組み合わされ、より効率的で持続可能なものになるだろう。

#### 1. エネルギー自給自足

未来の下水処理場は、再生可能エネルギー源を利用することが期待される。太陽光発電、風力発電、バイオガスなどのエネルギー収集手段が導入され、処理プロセスのエネルギー消費を最小限に抑える。

#### 2. 資源回収

下水中に含まれる有用な資源(リン、窒素、有機物)を回収し、再利用する技術が進化する。これにより、従来の下水処理場は排水を処理するだけでなく、価値ある資源も回収できるようになる。

#### 3. 先進的な水処理技術

新たな処理技術が導入され、微生物やナノフィルターなどを使用して微細な汚染物質まで効果的に除去できるようになり、水質の向上が期待される。

#### 4. デジタル化とセンサー技術

センサーやモニタリング技術が進化し、リアルタイムで状態を監視できるようになる。これにより、問題発生前に迅速に対処でき、運用効率が向上する。

#### 5. 遠隔監視と制御

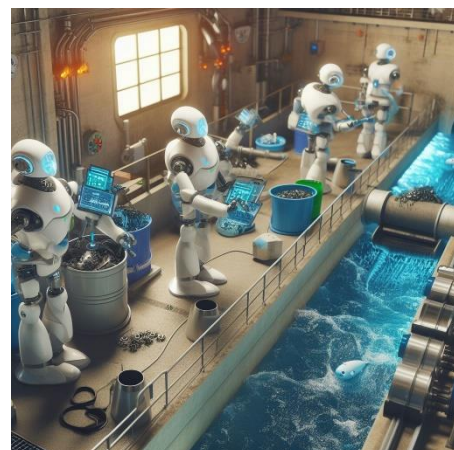
IoT技術を利用して、下水処理プロセスを遠隔監視および制御できるようになり、現地での人的介入が減少し、効率が向上する。

#### 6. 自己修復機能

ロボットや自己修復材料を活用して、設備の損傷や劣化に対処する能力が向上する。これにより、メンテナンス頻度が減少し、設備の寿命が延びる。

#### 7. 市民参加

地域住民との協力を通じて、下水処理プロセスの透明性が向上する。



市民が積極的に参加し、下水処理に関する意識を高めることで、より持続可能な水処理が実現される。



水処理だけでなく、ユニークなエンターテインメントも提供される。例えば、微生物の「水中バレエ団」が水中で優雅なダンスを披露する。また、

処理水を再利用する取り組みも進み、「リサイクル水プール」では、きれいな水で泳ぎながら、同時に環境に貢献できる贅沢な体験ができる。

・・・実は、以上の文章と画像は生成AIが作成したもののですが、如何でしょうか？内容的には、まあ、まともでしょうか。くれぐれも「AIの文章の方がお前より余程上手い」なんて言わないようお願いいたします。

## 編集幹事のあと整理

- 村上理事からは巻頭文と会員だよりの徒然水草シリーズ 其之四の二編が重なりました。
- 活動報告は12月4日のマンション排水設備更新問題についてです。2017年の初めての問題提起に続くものです。NL54にその報告文があります。NL26でも排水設備テーマでマンションにも話題が進展しています。ご参考に。
- 村上理事の徒然水草第四回を編集幹事校正のつもりで読み進んでいたところ、最後の「・・・実は」以下で村上氏が自ら書き綴ったものではないことが判明しました。騙されたような、それにしても村上氏はAI的正しい文章を前から書かれていたようだと、複雑な気持ちになりました。(褒め言葉ですよ、念のため)
- 会員だよりにコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月